

相談員が聞き歩き

# 「いばらきで活躍する 医師インタビュー」

リレ

## 女性医師 就業支援 相談窓口



Vol.4

独立行政法人 国立病院機構  
霞ヶ浦医療センター 院長  
鈴木祥司先生

### メッセージ

「私たちはいつでも共に  
皆さんを応援します」



### 女性医師・若手医師・医学生のみなさんへ

国立病院機構は全国 143 病院を運営し、日本で最大規模の病院体です。普段は地域医療を中心に行っていますが、政策医療やセーフティネットおよび災害時の支援など、厚生労働省の元で国の方針により活動しています。各病院にそれぞれ特徴がありますが、キャリアアップや転居の際は全国の国立病院へ転勤が可能です。

霞ヶ浦医療センターは茨城県南地域で唯一の国立病院であり、土浦市中心部を見下ろす高台にあって、昔から国立とか霞病と呼ばれて地域住民から親しまれています。

当院は土浦市の寄付で筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育センターを併設しており、筑波大学の県南地域の拠点として臨床、教育と研究に携わっています。

国立病院機構は治験など最大規模の臨床データベースを有しており、国立大学と国立病院機構のコラボレーションが全国的に進んでいます。当院の特徴は西田正人名誉院長の功績により、産婦人科患者が全国的から集まっており、患者にも職員にも女性にやさしい病院をモットーとしてきました。ただ病気を治すとか患者をやり過ごすのではなく、常にていねいな医療を心がけています。現在は二次救急から在宅医療支援まで、高度専門医療から社会復帰、そして予防医療まで幅広く患者の流れを学ぶための臨床教育センターとしても活躍しています。土浦という歴史ある地で住民に親しまれてきた国立病院であり、筑波大学の拠点でもある当院だからこそ、臨床だけではないたくさんのことを学び、将来幅広く活躍することができます。医師という天職を志したからには、自分の行動に常に責任と自信を持てる医師を目指してください。私たちはいつでも共に皆さんを応援します。

### 《プロフィール》

出身大学	秋田大学
専門領域	循環器内科全般 カテーテル治療 ペースメーカー 心臓画像診断
座右の銘 趣味	志高く キャンプ、料理



## 病院について

### 霞ヶ浦医療センター沿革

- 昭和16年10月 霞ヶ浦海軍病院として創設
- 昭和20年12月 終戦に伴って厚生省に移管され、国立霞ヶ浦病院として大房分院と共に2100床の規模で発足運営
- 昭和21年4月 附属看護学校が国立霞ヶ浦病院看護婦養成所として開設
- 昭和21年8月 大房分院を廃止
- 昭和30年11月 霞ヶ浦地区町村連合伝染病棟を併設
- 昭和54年1月 結核病棟を取り壊し、西1病棟を結核と精神の混合病棟化し、同時にリウマチや膠原病などを対象とした難病病棟が設置
- 昭和62年 地域医療研修センターを設置  
地域医療の活動拠点として活発に利用されている
- 平成12年12月 霞ヶ浦地区町村連合組合伝染病棟を廃止
- 平成14年3月 結核病床を廃止し、精神科病床を40床に増床
- 平成16年4月 独立行政法人化。国立病院機構の一員として霞ヶ浦医療センターと改称
- 平成17年3月 附属看護学校を閉校し水戸医療センター附属看護学校と統合  
58年の間1941名の卒業生を世に送り出した
- 平成20年3月 精神科病棟を廃止し、一般病床250床の中規模病院として新たにスタート
- 平成24年4月 筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育ステーションを開設
- 平成27年4月 筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育センターに昇格



正門外観(昭和21年)



独立行政法人 国立病院機構  
霞ヶ浦医療センター ホームページ  
<http://kasumi-hosp.jp/>  
霞ヶ浦医療センター女性医師支援情報  
<http://kasumi-hosp.jp/careers>







### レポート その1

## 霞ヶ浦医療センター周辺の風景

病院のロゴマークは霞ヶ浦湖面を風を受けて進む勇壮な帆引き船を表したもの。その霞ヶ浦と土浦中心部を見下ろす高台にある緑豊かな病院が霞ヶ浦医療センターである。

霞ヶ浦<sup>※1</sup>は国内第2位の湖面積を持つ湖で、その流域面積は茨城県全体の3分の1以上を占めており、遊覧船などのクルージングが楽しめる。周遊するサイクリングロードは絶景のツーリングスポットとして注目を浴びている。夏には観光帆引き船が運航され、冬には多くの渡り鳥が飛来し、深度は平均4メートルと浅くワカサギ、コイ、ハゼのほか外来種も生息しており、有名な釣り場として太公望が全国から訪れている。この他約150種類の野鳥や水生植物の宝庫となっている。

霞ヶ浦周辺を囲むのは土浦市、かすみがうら市、行方市、小美玉市、鉾田市、阿見町、美浦村、稲敷市の8市町村。



行方市観光協会Fbページより



### レポート その2

## 究極の医師不足、女性医師の積極採用

鈴木院長（循環器内科）の就任は平成25年。前院長の西田正人先生（産婦人科）が「医療現場における女性ならではの視点」にいち早く着目され、女性スタッフはもちろんのこと女性の患者さんへの配慮に力を注がれた。全国に先駆けて女性病棟の開設<sup>※2</sup>、女性外来<sup>※3</sup>の設置を実施している。そのような中、究極の医師不足に陥った。そこで、出産・育児を理由に継続勤務が困難とされていた女性医師の復職支援を行い、患者さんと病院を救うことになった。

当時副院長を務めていた鈴木先生は、前院長の西田先生の志を引き継ぎ、女性が力を最大限に発揮し、活躍できる場の提供を積極的に推進している。女性だからこそできる治療や細かな管理を目の当たりにして、鈴木院長自らハッと気付かせられることが多いそうだ。

国立病院機構常勤職員規定で定められた規則のほか、女性医師の子育て支援待遇を別に定めている。例えば、妊娠中、子育て中（小学6年生まで）の土日勤務、平日の当直を免除している。また、敷地内に保育所を完備し、病児対応を整えている。

病児保育は院内スタッフが自主的に連携し行っているため、急に熱を出した医師のお子さんを看護師長や事務部長が自室でおんぶ、抱っこしながら世話をする微笑ましいエピソードも。「先生が大変なら、みんなで何とかしなければ！」スタッフの温かい思いと一体感が伝わってくる。



茨城県公式観光情報サイト  
観光いばらき「いばらき写真ひろば」より

### ※1 観光茨城より引用

<http://www.ibarakiguide.jp/db-kanko/kasumigaura.html>

※2 女性病棟 婦人科を中心とした混合病棟。看護師、看護業務技術員すべてが女性のスタッフできめ細かい看護、患者さまや家族の思いを尊重し、寄り添うことができるような看護を提供。

※3 女性外来 平成15年4月～平成25年3月。性差を考慮した専門外来として開設。日本国内での性差医療と全人医療の普及により閉鎖。





### レポート その3

## 筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育センターとしての役割

平成24年からステーションが設置され、平成27年度より県南地域で唯一のセンターに昇格となった。医師臨床研修については基幹型、臨床研修指定病院として、さらには看護師や看護学生をはじめ県南を中心とした各種医療従事者の実習を受け入れ熱心な教育に取り組んでいる。

大学から近い場所ではあるものの、時代を越えて地域と密接なかかわりを持つ霞ヶ浦医療センターだからこそ学べる地域医療がある。

地域医療に関する研修では、病院スタッフ、地域の開業医の先生、訪問看護師、保健師、理学療法士、市の高齢福祉課など保健、医療、福祉の多職種が集まり、地域医療カンファレンスにおいて様々なケースの在宅ケアの問題点と対策について検討している。

この他にも地域住民に対する重要な保健・医療知識の普及、啓蒙活動（生活習慣病など）、さらに地域の保健医療機関との連携と機能分担の推進を要として、患者さん中心の全人的医療を実現することを目指している。

この歴史ある場所で、地域の人々の暮らしを支え続けていただきたい。



### おまけのレポート「霞ヶ浦風土記」

霞ヶ浦周辺の魅力を再発見できる一冊。鈴木先生の薦めで相談員も読ませていただきました。壮大な自然と人々の語りに引き込まれ、その時代を生きているかのような錯覚に陥り、新鮮さを覚えました。絶版となり入手困難ですが、電子書籍化されキンドル版で再版されています。

『霞ヶ浦に焦点をしばった聞き書き集であるこの作品には、漁師たちから聞いたかつての霞ヶ浦で行われていた様々な漁の様子、村や町での暮らし、利根川と江戸川を經由して霞ヶ浦と東京を結んでいた高瀬船や蒸気船通運丸の思い出、そして海軍航空隊と土浦にまつわる話など計38話が収められている。』（キンドル書評より抜粋）

著者 <sup>さがじゅんいち</sup> 佐賀純一先生

1941（昭和16）年生茨城県生まれ。慶応義塾大学医学部卒。国立栃木病院、ハワイ・クワキニ病院勤務を経て現在土浦で佐賀医院を開業。1989（平成元年）年、「絵と伝聞 土浦の里」で第一回日本私家本図書館賞。その英語版は海外で各賞を受賞。欧米などで日本研究のテキストとして使われている。今回紹介した「霞ヶ浦風土記」他多数の著書がある。ニューズウィーク日本語版で「世界が尊敬する日本人100人」にも選ばれている。

## 茨城県医師会 女性医師就業支援相談窓口



Facebookもチェック

[fb.me/ibaraki.dr.women](https://www.facebook.com/ibaraki.dr.women/)

<https://www.facebook.com/ibaraki.dr.women/>

029-241-7467

0120-107-467

029-241-7468

[i-dr.support@au.wakwak.com](mailto:i-dr.support@au.wakwak.com)

<http://www.ibaraki.med.or.jp/women/>